



望洋荘便り



第 38 号
平成 19 年
1 月 発行

迎春

謹んで新春の

およろこびを申し上げます

平成十九年 元旦



介護と看護の連携を図るには

——「人を見る」という目的は同じでしょう——

社会福祉法人りんさく福祉会

理事長

須田

侃

高齢者が暮らす施設では、介護職と看護職の連携や協力がスムーズにいかず悩んでいる所が多いと聞いています。背景には、おそらくそれぞれの資格や立場の違い、対話不足などがあるのではと予測されます。

介護ではさまざまな場面で、意見や考え方の違いが現れます。例えば、身体が弱って好物さえ受けつけなくなったとき、介護の人は何とか少しでも食べさせなければと思うが、看護職の人は無理してまで食べさせるべきではないと考えます。

両方の言い分それぞれ正しいのですが、問題は情報交換が充分なされているか否かにあると思われます。

介護職において看護職との関係がしつくりとっていない原因の一つには、職員同士が自分の意見を相手にきちんと伝える訓練を受けていないのではないかと。看護師の命令口調に戸惑いを感じ、会話に齟齬（そご）が生じるのではないのでしょうか。当然のことながら介護職だけではできないことも多くあります。しかし、お互いが誤解したままでは更にはうまくいかないのです。他職種との緊密な連携が本当に必要になってくるのです。

看護職サイドも同様なのではないでしょうか。積極的に話し掛けることが重要なのです。看護師とは違い、介護職は介護福祉士の有資格者やヘルパー二級の人、無資格の人などさまざまです。そのため、介護職の人をやや軽やかに見る傾向があるのではないのでしょうか。それでは、うまくいくはずがないのです。介護施設は医療現場ではなく生活の場なのです。看護師は黒子に徹することできれば素晴らしい組織になることでしょう。連携のポイントは、介護職と看護職がお互いの仕事内容を理解し、認めることなのです。介護職と看護職は専門分野が違うので、意見が異なるのは仕方ない事です。でも『人を見る』という根幹は同じです。利用者の立場に立てば、自然に同じ方向を向けるはずなのです。

施設には、介護職、看護職、事務職等さまざまなスタッフがいます。制服もなく区別のない仲間たちです。会話も多く、和やかな雰囲気包まれている望洋荘が、全職員同じ方向を向いて働いている施設であること念じて年頭の挨拶にします。

「八劔神社へ初詣」

元日と2日に豊間ユニットの入居者様が、高久にある「八劔神社」へ初詣に出掛けました。すこし風もあり肌寒い陽気でしたが、初詣に来たのは何年ぶりかしらと、お賽銭をあげてお参りを致しました。帰りの車中で、何をお願いしたのですかと尋ねたところ、「〇〇さん(施設職員)にいい人が出来るようをお願いしたの」なんて有り難いお言葉を戴きました。

「個別ケア」の取組について

ユニットケアにおいては、単に集団処遇から個別的処遇への流れの延長線上にあるものではなく、「利用者様を介護の対象者としてではなく、一人の生活者として、その人がその人らしく生活し続けることを支援するシステム」として捉えられています。

当施設においては、一ユニットを十六名(五ユニット計八十名)で構成し、それぞれのユニットには介護スタッフの他に、ユニットリーダーと担当生活相談員及び看護職が配置されています。また、それぞれのユニットには、個人の居室(プライベートスペース)と、食卓と居間的な雰囲気を持つ交流スペース(セミプライベートスペース)があり、家庭的な生活環境を作り出しています。同時に、他のユニットに入所されている利用者様との交流を図るスペース(セミパブリックスペース)や、来荘者や面会者、ボランティアの方々等との交流を図るスペース(パブリックスペース)が整備されており、最近ではこの空間作りを充実する上で様々な工夫を取り入れて、門松作りや季節ごとの飾りや小物作り等を、利用者様の協力やアドバイスを頂き共同作業で作成しています。

利用者一人ひとりからすれば、生活の場が自宅から施設へ入所する上で、ハード面(住まい・環境)においては、安全で生活しやすい場所に移り住むだけの事であり、これまで築いてきた地域社会との関わりや家族との関係には何の変化もありません。そのため、ユニットケアのはじめの一步としては、共に暮らす隣人としての関わりを持つことから始まることと考えていくことが必要となります。

また、施設での生活においては、一人ひとりに寄り添いながら、家庭的な雰囲気(介護から生活の場)を作り出すことが大切であり、「ここが我が家だ」と安心して過ごせる環境が重要となつて来ます。ハード面(住まい・環境)とソフト面(介護の質)での融合したサービスを組み立てていくよう努力しています。

「仕方なしの入所ではなく、希望ある将来へ」と、利用者様が笑顔で過ごせる施設作りを今後も行っていくと思っています。



「いわき寄席」 出演者の色紙集から

「いわき寄席」 出演者の直筆の色紙を紹介致します。

柳亭 市馬 師匠の作品です。

○第四五回 いわき寄席 平成九年三月四日

(演目) 時そば、しめ込み、寝床

○第七七回 いわき寄席 平成一四年十一月二八日

(演目) 金明竹、駒勢問答、掛け取り

○第九五回 いわき寄席 平成一七年十二月一日

(演目) 片棒、御神酒徳利

※ 平成一八年十二月二日に望洋荘へお弟子さんの柳亭市松さんと来荘され、懐かしい歌謡曲や浪曲をご披露頂きました。また最後には、三波春夫の忠臣蔵でお馴染み「俵屋玄蕃」を踊りながら熱唱頂きました。

師匠の声は大きく、張りが合ってお年寄りにも聞きやすく、楽しいひと時を与えて頂きました。

松 寿 千 年
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

松 寿 千 年

ほどのよい
月が柳を
引きたたせ
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

ほどのよい
風が柳を
引きたたせ

ぬかみに
思ひ切る手の
美しさ
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

ぬかみに
思ひ切る手の
美しさ

風の吹く方を
後ろに
柳かな
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

風の吹く方を
後ろに
柳かな

一 断
心 如
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

断 心 一 如

柳かな
風吹くまま
ふかぬ儘
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

柳かな
風吹くまま
ふかぬ儘

むっとして
返れば角の
柳かな
柳亭市馬

柳亭 市馬 師匠
(第 45 回いわき寄席 H9.3.4)

むっとして
返れば角の
柳かな

新年を迎えて 「新年の抱負」

今年の目標

— 苦勞して得た体験を

大事に持ち続けましょう—



介護老人福祉施設 望洋荘

施設長 須田 美保子



新年 おめでとうございます。

年が明けると「あけましておめでとう」と挨拶を交わし、新年を祝います。その挨拶には、どういう意味があるのでしょうか。そもそもお正月は、明治の頃までは単に年が改まるというだけではなく、家に『年の神』を迎える特別の日とされていきました。年の神はみずみずしい活力に満ち、人間を新たな息吹で復活させ、再生産の力を与えるといわれております。その神に対して、祝福の意を込め「あけましておめでとう」という言葉を捧げてきたのです。

「若い時の苦勞は買ってでもせよ」という言葉があります。人生には苦勞はつきもので、その人なりに避けることのできない困難な事態が、長い一生のうちには幾度となく起こってきます。そのような時、挫折し、意気消沈するか、強靱な精神力で立ち向かい、その困難を乗り越え解決するかは、苦勞した経験の数や度合いにもよります。

つまり、若い頃から苦勞を避けて、積極的に経験することを繰り返していれば、苦勞に対しての「慣れ」や「免疫」といったものが生まれ、次第に苦勞を苦勞とも思わないような「体質」になっていくのです。そうなるとうとうと、いくら困難な事が起こってきても、いつでも余裕を持って冷静に対処しようと思えますから、うまく解決できる可能性はますます高くなり、人からの信頼も得られ、人格も自然に練磨されていきます。苦勞して得た体験は、底力となってその人の内面に蓄積されて多くの仲間から信頼されます。

元旦は、人生の、年の流れの尊い節目です。年頭にあたって、ただ漠然と迎えることなく、多くの苦勞に敢然と立ち向かって下さい。それが、入所者様の期待に応えることにつながるのですから。

介護老人福祉施設 『望洋荘』 職員紹介 & コメント集



介護士 草野 千奈

私の名前は「くさのちな」といいます。昨年九月に入社して最初は、勿来ユニットで仕事をさせて頂きましたが、今月より永崎ユニットに移動となりました。まだまだ分からない事が多く、毎日が無我夢中で、あつという間に四カ月が過ぎてしました。干支は猪で今年は年女です。好きな食べ物は、パインアップルとチーズケーキです。反対にトマトとレバーが少し苦手です。

この仕事についたきっかけは、姉が同じ様に老人福祉の仕事をしています。大変そうだけど、いつも笑顔で楽しそうにしている姉の姿を見て影響されたのだと思います。何時しか、自分もそんな仕事になりたいと思うようになって望洋荘に志願しました。こんな私ですが、どうぞよろしくお願い致します。

編集後記

『望洋荘』便り

平成十九年一月一日発行

発行所 いわき市

社会福祉法人 りんさく福祉会
介護老人福祉施設 望洋荘

電話 (0246) 55-7373
FAX (0246) 55-7255